



公益社団法人日本金属学会は、『金属に関する理論ならびに工業の進歩発達をはかること』を目的とした学術団体として1937年2月14日に創設され、2013年3月1日に公益社団法人に移行しました。会員数は2020年2月末時点で国内外合わせて4,885名、156団体で、金属及びその関連材料に関する研究成果を世界に発信する学会として活動を展開しています。近年は、対象分野も拡大し、金属及びその関連材料分野の学術および科学技術の振興を目的として、組織図に示すように、最高議決機関である「社員総会」、業務執行決定機関の「理事会」、業務監査機関の「監事」の下で、「委員会」、「支部」、「事務局」により、学術誌や学術図書の刊行、講演会や講習会の開催、調査・研究、表彰・奨励の事業を行っています。

刊行事業では、会員の情報交換や啓発・教育を目的として、会報「まてりあ」を毎月刊行し、会員に配布しています。2020年は「あのころ」のまてりあ、「思い出の教科書、この一冊!」、「科学館めぐり」、「よくわかる!ピンポイント講座」といった多くの新企画記事の掲載を始めました。また、和文の学術論文誌「日本金属学会誌」および、材料系14学協会と共同刊行している英文の学術論文誌「Materials Transactions」を毎月刊行して、研究成果を国内外に広く発信しています。日本金属学会誌では年間約60編の論文が、Materials Transactionsでは年間約370編の論文を掲載しています。さらに、金属及び関連材料に関する専門書や教科書類等の「学術図書類」を刊行しています。

講演会・講習会事業では、最新の研究成果を発表・討議するとともに、会員間の交流を図ることを目的として、春秋2回の「講演大会」を開催しています。講演大会は約900件の講演があり、約1,500名が参加しています。会場では、材料に関する関心を高めてもらうための「高校生・高専生ポスター発表」や学生の進路選択と企業の採用を支援するための「企業説明会」を開催し、「機器展示」や「ランチョンセミナー」も実施しています。しかし、2020年は新型コロナウイルス感染の拡大により、春期講演大会は中止になり、秋期講演大会はオンラインで開催しました。また、専門知識の

普及や啓発、教育を目的として「セミナー・シンポジウム」や講習会を開催しています。国際会議もこれまでに25件を本会主催で開催しています。

調査・研究事業では、重要な運営に関する「企画委員会」、「セルフガバナンス委員会」等が設置されています。また、関連が深い専門分野の研究者や技術者が集う9つの分科で「調査研究委員会」の活動を行っています。先端領域や学際的領域の研究を促進する目的で「研究会」が活動しています。また、学術・技術の発展や若手研究者の奨励を目的として「フロンティア研究助成」を行っています。さらに、「戦略推進委員会」や「科研費委員会」では、金属及び関連材料分野の振興に向けた材料戦略活動を行なっています。「人材育成委員会」では、次世代を担う人材育成を目的として「高校生向けホームページ」等の活動を行なっています。「男女共同参画委員会」では、女性の社会進出を支援するために、男女共同参画学協会連絡会との連携や鉄鋼協会合同男女共同参画委員会活動を実施しています。また、「国際学術交流委員会」では、World Materials Day Awardの授賞をはじめ、米国TMSとの講演大会へ研究者の相互派遣、韓国KIMとの共同シンポジウム開催等を実施していますが、2020年度は中止せざるを得ませんでした。

表彰・奨励事業では、「名誉員」や「学会賞」を始めとして、優れた研究や技術開発の成果を上げた者や当該分野の発展に寄与した者の表彰や今後の貢献が期待される者の奨励を目的とした「各種賞」で、毎年17件の表彰・奨励を行っています。

全国の8支部も活発に活動しており、各支部で独自に講演会・講習会(講演大会、本多光太郎記念講演会、セミナー、談話会)、研究会、見学会などを実施しています。

日本金属学会は21世紀の日本を背負って立つ研究者や技術者の入会を大いに歓迎いたします。会報「まてりあ」は、会員のみに提供されます。さらに、会員には、講演大会への会員参加費での参加及び登壇費の免除、刊行物の会員価格での購入、本会主催のセミナー・シンポジウム・講演発表会等への会員割引価格の参加等の特典があります。

